



全国の変形性股関節症 患者に救いの手を

高い技術と経験が必要不可欠な人工股関節置換術とMIS（最小侵襲手術）で、変形性股関節症の患者を救い、多

忙を極めた1年間。難易度が
高いため、執刀に踏み切らな
い医師も多いというこの手術
だが「一人でも多くの方の痛
みを取り除くことが使命」と
きっぱり。そこには技術、経
験、自信、そして医師として
の熱い思いが垣間見える。
変形性股関節症は、40〜50

代で発症する場合が多い。早
期の社会復帰が重要と考え、
より精度の高いMISを可能
にする医療用コンピュータ
「ナビゲーションシステム」
を導入。術後の入院期間も10
日ほどに短縮している。
評判を聞き、道外から訪れ
る患者が全体の半数以上を占
めているのも医療レベルの高
さの証左。人工股関節置換術
のスペシャリストは、「今後
も股関節という専門領域に特
化した医療を追求する」とさ
らなる高みを目指す。

狩谷 哲氏

◎石部基実クリニック副院長

挑む
2012

(かりや・さとる)1969年長野県松本市生まれ。金沢医科大学医学部卒業。国内外の大学、基幹病院で股関節の治療に従事。10年石部基実クリニック、11年に副院長に就任。